

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立玉造小学校

1 学校教育目標

心豊かで、たくましく生きる力を身につけた児童の育成

2 本年度の重点化された具体的な目標

「確かな学力」	○基礎基本を身につけ、主体的な学ぶ児童を育てる ○考える楽しさを味わう児童を育てる
「豊かな心」	○約束事を守り、協力する児童を育てる ○自分も他者も大切にする態度を育てる
「たくましい体」	○体力づくりに励み、最後までがんばり抜く力を育てる ○健康で安全な生活の習慣化を図る
「家庭・地域との連携」	○保護者・地域とともに歩む学校づくりを推進する

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
確かな学力	児童は基礎基本となる学習が身に付いている。	学習形態の工夫により82%の保護者が「身に付いている」と回答している。	B	発表が苦手な児童も参加できるよう、ペア・小集団→全体の段階的な交流形態を工夫する。
確かな学力	職員は、わかりやすい授業などの、授業の充実に努力している。	効果的な授業実践を職員間で共有することで、91%の保護者が「授業の充実に努力している。」と回答している。	A	学級ごとの取組差を減らすため、効果的な授業実践を職員間で共有し、授業改善に生かす。
豊かな心	職員は、一人一人の子どもたちに目を向けたリ、話を聞いたりしている。	相談体制の充実により87%の保護者が「できている。」と回答している。	B	児童が悩みを相談しやすいよう、日常の声かけや定期的な面談など、相談体制を見える形で整える。
豊かな心	学校は楽しい。	達成感を味わえる活動を意図的に設定することで、84%の児童が「楽しい」と回答している。	B	達成感を味わえる活動(係活動、行事、学習の小さな成功体験)を意図的に設定し、自尊感情を育てる。
たくましい体	学校は、外遊びや運動を進めたり、体育の授業を充実させたりするなど、体力や運動能力の向上に努めている。	運動が苦手な児童にも「楽しい」と思えるような活動を取り入れたことで88%の保護者が「務めている。」と回答している。	B	体育授業の質の向上を図り、運動が苦手な児童も「できた」「楽しい」と感じられる授業づくりを進める。
たくましい体	学校は、登下校の安全・不審者対応・休みの日の過ごし方等、子どもの安全確保に配慮している。	安全指導や休日の過ごし方についての指導を継続的に行うことで92%の保護者が「配慮している。」と回答している。	A	登下校の安全指導、不審者対応、休日の過ごし方等について、繰り返し指導し危険回避能力を育てる。
家庭・地域との連携	学校は、学校・学年だより、ホームページなどで、学校の思いや日々の教育活動の様子をわかりやすく伝えている。	内容の見やすさやわかりやすさを考えながら発信することで、89%の保護者が「わかりやすく伝えている。」と回答している。	B	学校だより、学年だより、ホームページについて、内容の見やすさや分かりやすさを意識し、学校の取組が伝わる発信を継続する。
家庭・地域との連携	学校は、地域や保護者の思いや願いを大切にしようとしている。	地域や保護者の意見を聞く機会を増やすことで、93%の保護者が「努力している。」と回答している。	A	地域・保護者の思いや願いを把握するため、意見を聞く機会を増やし、学校運営に生かす。

4 自己評価の結果の分析

本年度は、基礎・基本の定着や授業改善の取組により、一定の成果が見られた。特に、授業実践の共有や学習形態の工夫により、児童の理解の向上や学習への意欲の高まりがうかがえる。また、相談体制の充実や達成感を味わえる活動の工夫により、児童の安心感や自己肯定感の育成にもつながっている。さらに、安全指導や家庭・地域への情報発信においても概ね良好な評価を得ている。

一方で、学級間における取組の差や、発表に対する苦手意識をもつ児童への支援、運動に対する意欲の個人差への対応などが課題として挙げられる。今後は、実践の共有を一層進めるとともに、個に応じた指導や支援の充実を図り、学校全体としての教育の質の向上を目指していく必要がある。